

中国における朱鷺生態調査



企画部 参事 竹内 亀代司

1. はじめに

日本では、平成27年頃に約60羽のトキを定着させる目標に向かって、トキの順化施設が佐渡に建設中である。現在、リバーフロント整備センターでは、新潟県より「トキの野生復帰に向けた川づくり」を受託し、トキの野生復帰に向けての総合的な取り組みの一環となる川づくりの検討を実施している。

本調査は、平成17年10月4日から9日に野生のトキの生息地である中国陝西省洋県において、中国におけるトキ保護の現状と野生トキの生息環境を実際に見ることで、今後の検討の参考とすることを目的に訪れた。

2. 中国におけるトキ保護の現状

本調査で訪れた陝西省洋県は、中国の内陸部に位置しており秦嶺山脈の南麓に位置している。

洋県では、1981年に7羽が再発見されてから、営巣地の監視・保護、えさ場の確保、人工飼育での繁殖など研究・増殖を目的に陝西朱鷺保護観察所を建設している。中国には、現在、人工飼育が約340羽、野生のトキが460羽生息している。



写真-1 朱鷺保護観察所とケージ内を飛ぶトキ

3. 野生トキの生息環境

3.1 営巣地の環境

本調査で訪れた野生トキの営巣地は、人家のすぐ裏の高い木(高さ約20m)であり、ヘビよけのビニールが巻かれている。営巣地の条件として、①人家の近くでも良いが、大きな木で安全な所、②周辺に餌となるドジョウが生息する無農薬の水田が必要との事であった。



写真-2 人家の裏の営巣木

3.2 餌場環境

朱鷺保護観察所によると、野生のトキの餌は、繁殖期は、繁殖地周辺の水田の主にドジョウや貝、小さなカニやカエルである。繁殖後は、水田以外に河川の湿地や周辺のコオロギ等の昆虫との事であった。

実際に野生のトキが洋県近郊の水田で採餌している所を見ることができた。水田のすぐ脇には道路があり、人々の生活圏の中でトキが生息していることがわかる。



写真-3 トキのいた水田(左)と採餌するトキ(右)

河川として揚子江の支川漢江を視察したが、洪水後で水位が高かったためか、野生のトキを確認できなかった。しかし、写真のような水際の湿地がトキの重要な餌場として位置づけられていた。

また、中国では、トキだけでなくトキが生息している地域全体の環境を保全する観点から、保護区が設定されている。漢江もトキの餌場として保護区に指定されている。

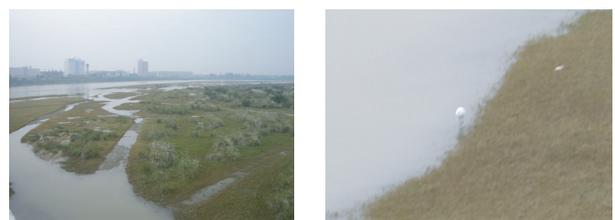


写真-4 漢江の水際の湿地(左)とサギ(右)

4. 終わりに

中国での調査から、野生のトキの生息条件として、以下の4点が想定された。

- ① 水田や河川などの餌場の確保
- ② 繁殖場所の確保(高い木)
- ③ 農村環境(人間と自然が共存しているところ)
- ④ 地域住民の理解(無農薬、保護区の設定)